
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第314号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2011.07.07（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1190 部*****

【山崎農業研究所総会・総会記念シンポジウムのご案内】

◎日時：2011年7月23日（土）13：00～17：30

◎場所：NTC インターナショナル（株）5F会議室

東京都新宿区四谷3-5 不動産会館ビル5F

東京メトロ丸の内線四谷三丁目駅下車

A3出口より四谷方面へ50m

コンビニ「サンクス」隣

◎次第

1、総会：13：00～13：30

2、シンポジウム「東日本大震災と農業・農村」：13：30～17：30

1) 農地、農業施設被害とその対策

山崎農業研究所 幹事 渡辺 博

2) 「風評被害（東海JCO～フクシマ）を乗り越える経営力を求めて」

農業生産法人てるぬまかついち商店（甘藷・干しいも生産・加工）

代表 照沼勝浩（茨城・東海村）

3) 「福島ー希望への道筋を探りながら」

「大地を守る会」 農産グループ長 戎谷徹也

4) 全体討議

3、懇親会：17:30～

◎参加費：500円（資料代等）、懇親会費：4000円（予定）

※会員外の方の参加を歓迎いたします。

※7月15日までに出席のご予定を事務局・益永までご連絡ください

TEL.03-3357-5916（益永） FAX.03-3357-3660

e-Mail: y.masunaga@ntc-c.co.jp

【NEWS】

辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）が
『自給再考ーグローバリゼーションの次は何か』の書評を書いて下さいました。

グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

□ 目次 □-----

<巻頭言> チェルノブイリ原発事故が起きた 25 年前 (1986 年) から
現在、将来を思う 安富六郎

<時代を見る眼> 番外 棟方志功とねぶた 松坂正次郎

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.125』発行されました

<編集後記> 内山節さんの講演を聴いて

<85 歳からのメッセージ> 休載のお知らせ

<巻頭言> チェルノブイリ原発事故が起きた 25 年前 (1986 年) から
現在、将来を思う

山崎農業研究所を創設 (1974) した故山崎不二夫 (東大名誉教授) は、わが国農業の発展と科学者の民主化運動を進めていました。原子力の問題についても強い関心を示し、その危険性を訴えています。次のものは 25 年前 (昭和 61 年) の所報「耕 No.46 号」からの抜粋 (要旨) です。



課題研究「21 世紀の農業」第 5 回：代替エネルギーとしての核融合の将来を探る
講師：東工大原子炉工学研究所 高橋亮一氏

(講演要旨)：

今の原子炉は基本的に核融合型と核分裂型の 2 つに大別される。実際に使われているのは核分裂型である。核融合型は将来も使いこなすのは無理ではないかと思う。何れにしても(1)原子炉は取り扱いを間違えば大変危険である。とくに停電などによる温度上昇はガス爆発の危険性がある。(2)資源の乏しい日本が豊かさを得るためには、エネルギー利用を増大させ、GNP を上げる。これには原発にたよる以外に方法はない。(3)総エネルギーの中の基底エネルギー40%を原発でカバーすることを目標に、政府は原子力利用を強力に推進している。

(討論抜粋)：

山崎：放射性廃棄物の処理をどうするか。

講師：ガラス固定で地下に埋める。300 年ほど経てば、ウラン鉱山と同じ程度になる。放射能を浴びる危険もあるが、利益との双方から見るのが大切。

山崎：原子炉の安全性についてどう考えるか。

講師：万一の事故でも、発生した中性子は他のウランに吸収されて核分裂は抑えられ、核暴走は起こらない。ただ心配なのは炉心溶融だ。理論的には、これによって発生した熱で（アメリカから中国までを貫くほどの穴が開く）チャイナ・シンドローム現象も起こりうる。



この研究会が開かれた 1986 年 4 月 26 日の当日、ソ連のチェルノブイリ原子力発電所で大事故（*）がおこり、安全神話は完全に崩れました。その年、山崎は、「非核化を進める運動」の発起人の一人として次のように呼びかけています。



「非核の政府を求める会」は、全人類共通の緊急課題として真剣に非核の実現を目指す政府を求めて、思想・信条の相違をこえた国民的運動を展開しようというものである。

私も発起人の一人となった。私に残された時間はあまりないが、その間に非核の政府の実現をみたいと切に願っている。（山崎不二夫）



以上の内容は、いまも生きています。原発安全性に対する深い疑念が分かります。石油はじめ地球資源の枯渇問題とは質の異なる原発事故の恐怖、廃棄物処理などの、「負の遺産」を将来の世代に残してはならない。今回の福島の実験は人類全体の将来にもかかる大きな意味を持っていると思います。

（*）ウクライナのキエフ北方の町で起きた原発事故（1986. 4. 26）。炉心爆発。炉心溶融、建物破壊が生じ、欧州世界各地に放射の応汚染をもたらした。数億キュリーの放射性物質の放出で、多数の死傷者がでた。

安富六郎

山崎農業研究所所長

yamazaki@yamazaki-i.org

<時代を見る眼> 番外 棟方志功とねぶた

“時代を見る眼”が私に与えられているタイトルだが、梅雨に思考もジトジト湿って、モノがよく見えず、駄洒落を申したき気持ちになった。大切な紙面をお許し賜りたい。

私は自らも絵は不得意で、名画といわれるものを見に参っても「なるほど上

手いものだ」程度のド素人で、それに係わることは“言語道断”であろう。
(それを承知の狂気！)

もう半世紀以上前のことであるが、郷里・仙台からの修学旅行は東京・京都・奈良という定石どおりで、東京の美術館ではヴァン・ゴッホの特別展を覗くことが出来た。そこで印象に残ったのは「ゴッホと日向葵」という図柄であった。しばらくして青森県に旅行の際、丁度、8月の夏休みに入ったところで、有名な「ねぶた」を見られる（青森市で8月3日～7日、弘前市で8月1日～7日）というので、青森市で見ることにした。その前に、「俺あ、ニッポンのゴッホ」といったとか、人々が評したと言われる稀有の板画家・棟方志功氏の自宅に案内してもらい、かの独得の画家に面会していただいた。

有名すぎる程の方なのに、あっさり、自然体で、こちらがごあいさつ申す暇もなく、独得の青森弁（と言わんか、志功弁と言わんか）で、かつ早口でいろいろ語っていただき、偉ぶらない名画家に心を奪われ、大満足したことをなつかしく思い出す。あたかも夏休みも近づいていることを頼りに一筆参らせ候。

志功の板画そのままにねぶたの夜

山崎農研会員 コラムニスト

yamazaki@yamazaki-i.org yamazaki@yamazaki-i.org

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.125』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.125』が発行されました。

今号では、東日本大震災を特集しています。

研究所ホームページから、目次を見ることと、記事の一部のダウンロード（無料）ができます。また、ご希望の方には雑誌を頒布（有料）いたします。

<http://www.yamazaki-i.org>

目次（抜粋）

《土と太陽と》（巻頭言）

東日本大震災と農業・農村復興……安富六郎

〔特集〕 どう向き合うか 東日本大震災

- ・被災地を歩いて—災害の被害者から復興の当事者へ……小泉浩郎
- ・東日本大震災による農地と農業インフラの被災状況……渡邊 博
- ・土壌の放射能汚染をどう考えるか
—現場での対応を中心に……編集部・森敏
- ・エネルギーは社会の根本問題……関 曠野
- ・震災から森と住まいの文化を考える……大内正伸
- ・大震災と住民自治……鳥越皓之
- ・「持続型地域」建設ビジョンをどう描くか……千賀裕太郎
- ・引き受けるものと選択するもの……宇根 豊

<編集後記> 内山節さんの講演を聴いて

先日、哲学者・内山節さんの講演を聞く機会があった（2011年6月25日、哲学塾東京分校の・ようなもの主催「内山節講演会と交流の集い」）。

テーマは「哲学は未来をどう語れるのか—震災復興と脱原発から考える生命、自然、労働」である。長くなるが当日配られたレジュメをひきうつしてみる。

1. はじめに—哲学は現実に対して対峙していなければならない
2. 自然の災禍、文明の災禍
3. 危機とシステムの崩壊
4. 政治の対応力不足を批判することの問題点について
5. 現代の安全論争を拒否する
6. 巨大システムと『専門性』
7. 外部化されたシステムとそのイメージ化
8. 現代社会と情報
9. 情報と身体性、霊性=生命性
10. 東日本大震災と復興の意味
11. 存在の意味と他者からの働きかけ
12. 国家の破綻と関係する世界の再構築
13. 近代的社会観の転換とは何か
14. まとめに代えて—ひとつの時代を終わらせるために

個人的には、「11. 存在の意味と他者からの働きかけ」のなかで内山さんが言われた、「他者からの働きかけのなかに自己が存在する」という言葉がいちばん心に残った。

かつては「自然や死者も含めた他者に働きかけられる」が先にあり、そこ（むらやいえ）での役割を果たすことによって人々は充足した日々を過ごしていた。それが近代になって「自分から働きかける」に、「自分から」に重きがおかれるようになった。しかしそれが大きな問題を生むようになった——そんなふう

に内山さんは説明されたように思う。

このことは社会が「積極性」に価値をおくようになったこととも関係しているのだろう。「積極性」の向かう先が何かもわからないままに「積極性」が評価される時代、そんな時代が長らくつづいてきたのではないか。

だが巷にあふれる「積極性」の多くは、端的に言って、自然と人間との関係の破壊、人間と人間との関係の破壊などに結びついていったような気がしてならない。震災を機会に、そのような状況に対してあらためて、落ち着いた思考が求められているといえるのではないか。

そのようなときにこの内山さんの講演会を聴けたことのよろこびをあらためてかみしめている。

2011年07月07日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

<85歳からのメッセージ>

「85歳のメッセージ」は、作者の都合により、今回はお休みとさせていただきます。

原田勉

<http://nazuna.com/tom/>

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売
『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』
(発売：2008/11 定価：1,575円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんのお書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎戒谷徹也さん（大地を守る会）

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案 書評：『自給再考 ―グローバル化の次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

（2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優）

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎小谷敏さん（大妻女子大学）

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎塩見直紀さん（半農半X 研究所、執筆者）

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言い

たいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

◎投稿アドレス変更のお知らせ

電子耕への投稿アドレスは、117号から発行人の変更に伴い、

yamazaki@yamazaki-i.org

となっております。投稿される方はこちらのアドレスをお願いします。

次回 315号の締め切りは07月18日、発行は07月21日の予定です。

★『メールマガジンの楽しみ方』発売中

書名：岩波アクティブ新書 45 『メールマガジンの楽しみ方』

著者：原田 勉 定価：735円 発行日：2002年10月4日

発行所：岩波書店 ISBN4-00-700045-X

まえがき・目次・著者紹介・注文方法はこちら

<http://nazuna.com/tom/book.html>

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第314号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2011.07.07（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』*****